雜々拾遺

権化異人の事 三丁メ
安倍仲麿の事 四丁メ
小野の篁入事 五丁メ
菅丞相の事 七丁メ
艾納言入道信西の事 八丁メ
大政大臣清盛公の事 九丁メ
白河の三位経朝の事 十丁メ
勢州浪宮の事 十一丁メ
完戸下総守家俊の事 十二丁メ

九曜文庫

武田四郎勝頼の事　十二丁メ
同巻之末
　艾年明智の謀
楠正成九冨の時名言の事　十三丁メ
細川右馬乃頼之十冨の時名将の事　十四丁メ
和陳の民富十二ヶ条の事　十五丁メ
長尾の猶信十二冨よく図事の事　十六丁メ
武田の信玄十二冨よく智を容る事　十七丁メ
信長公十二冨よく智深き事　十八丁メ
大江の元就十二冨の時名言の事　十九丁メ
正木大猷十二冨の時る道秘を告の事　廿丁メ
三好長慶十五冨のときよく行の事　廿二丁メ
赤井悪右衛門冨の時人と殺をし事　廿三丁メ
山中鹿之介三冨まて名誉の事　廿四丁メ

雑々拾遺巻第三

安信仲麿の事

安信の仲麿ハ元正天皇の神宇景雲二年小遣竜
使として大唐へ渡海ありし法通をまなびし人学恋
の余多あまなび利根しかしこきなり。唐朝のもの
もろもろの相伝する二ハ言葉奥旨をきわめ
まり即ち唐の自得と感じく。仲麿ともに唐へ
ものあらば向後四百余年の歌えこそ。うたてく
るけまより日本へもどるもし必
定あらん。もとより詠歌をもて

づさよう墨あの学もと而深つ硬くてきのよ
仲麿とうへさび漢家みく令とくありつ後
吉備公海唐を阿あうまみの奥あり里。唐人
のとくへつをを大事ごもとつ吉備大唐人
相法すつまづうくらの墨球り杉くたといい
るごごも。故郷へ方人をを心くく海切あり。事勢
よあくくあくづきいけ人あり
小野の堂八代の事
小野のたつもへ朝臣天皇八代の後記小野
の篁経のみ。あこ頭通風う仰文あり。性学

治安のくれうの仙あり。たつもへ方のたを云
天うすこうら像義よりて手相あり。弘仁年中
活源天皇へ法うまりて参議よりうたつみを
ら法通の長人ふよ朝恩あり。天長年
中を唐使の勅命あり。管大使をきつい
らんとありむまものをよみ名列の勅をあまづ
脇心ふいさごくよくく。高ふ病と称くて参会と
とごず。天皇逆鱗ましてたつみうと法波
のまへあごさせたまふ。ぱとさ大唐の白玉天日
年のまたつもくとをくあんとして海辺の凡

くこゝろをね行年五十ふたつとぞ。ちまたよりみてこむ
ろくる事あり

蒼蕃根の帰家

蒼蕃根いえびと海橋とあづまぢ諸子といふ
一作の後凱。嘉禄従三位蒼蕃のこ男
帰国の使命のむすめあり。仁明天皇の御宇嘉和
十二年五月廿五日清たんじやうあり。一統
みな化人と称ず。もろもろ清家清のおりもさ
もうくのでゝ。貞観四年五月蒼家十八名ありて
ひき帯。たまふ。天性聰明叡智みくちろび篤

海橋とあづまぢ諸子といふ
一作の後凱。嘉禄従三位蒼蕃のこ男
帰国の使命のむすめあり。仁明天皇の御宇嘉和
十二年五月廿五日清たんじやうあり。一統
みな化人と称ず。もろもろ清家清のおりもさ
もうくのでゝ。貞観四年五月蒼家十八名ありて
ひき帯。たまふ。天性聰明叡智みくちろび篤
くこゝろをね行年五十ふたつとぞ。ちまたよりみてこむ
ろくる事あり

蒼蕃根の帰家

蒼蕃根いえびと海橋とあづまぢ諸子といふ
一作の後凱。嘉禄従三位蒼蕃のこ男
帰国の使命のむすめあり。仁明天皇の御宇嘉和
十二年五月廿五日清たんじやうあり。一統
みな化人と称ず。もろもろ清家清のおりもさ
もうくのでゝ。貞観四年五月蒼家十八名ありて
ひき帯。たまふ。天性聰明叡智みくちろび篤

ころありまゐハ清雄遣とぐこ
紀の治承五年金七度と給て昌泰二月十
四日清ら五千五百の時。右大臣小野右大将
と奏まつりすふりら勅宣ありくたる所衆
の時等とすふ幼名とそまたまつり。万機
のまつりまと執行すべしと。喜帝
いまぐ清名年ころふよ
四く若宗とめくまゐ国司職とはそまつり
宮勅答ありぬ。うやうやく辞退
あつく勅宣とうへ清ら。うやうの事ども時等

ろいたくやうやく當今へ譲と参とるぬ。
よふく四月廿七日若美相右大臣辞退のまと
たくまつり清ぬ。ふりのゆくまく警固た
中納言永家とうへまとうへまを
四月三月四日みら表あつく辞しまつれも
清ゆるしあく。四日たりぬとうへ
清ら四月廿八日うねくみら
清のふ勅免あり。ぬとうへまとうへ
月廿五日廿暴みて。延

三年二月廿五日法ノ如ク五年九月ニ至リ四月廿日ニ二位ノ贈位アリ。其後二階四年五月廿日ノ太政大臣ノ一位ノ贈モアリ。勅使ノ参向アリ。同年十月廿日又贈太政大臣ノ勅使ノ参向アリ。けだしノ勅使ノ件ノ宣命ヲ読ムニ当リテ、ヨロコブノ字ヲ誤リテ、ヨロボフト読ミシヨリ、ヨロボフノ勅使ト称ス。

忽ち朝使ニ莉蘇ヲ

官品ヲ加テ弥威ル

雖レ仕二恩寵一源

只恨在没方遷名

右天智天皇ノ御事ヲ回紀ノ朝臣ニ問ハセ給ヒシニ、ソノ時ノ人ノ心ノ浅深ヲ知ラント思召シテ、ワザト此ノ詩ヲ作リテ奉ラセ給ヒケリ。其ノ意ハ、ワレ君ノ寵ヲ受ケシ事ハ、ソノ身ノ没スルニ当リテ、名ヲ遷サレンコトヲ恨ムルノミ、トナリ。

世ノ人ノ心ノ見ヘ別ルヽ事ハ、カヽル時ニ当リテ、ヨクヨク知ラルヽモノナリ。

ありしよりうつりゆくまをあるものや陟遐生日

七廿五日添ふる七廿五の日を廿五日ごとに又十ごとに、さればけふの他事とするぞ

すて信心とおもうすべし。そのゝち廟ありとおもひてうやまうべし。
ちよ丸人のゝ書給ふ詞也よくよくこゝろうべし。
み仏言ハ通信両の事
お仏ごんハ通信両修ゝゆへ通ずと書給ふ。大経冠のまゝあり。しかし人法ともに達しことふ文也。
法ともにあるの事あり。そのこゝろあるべし
後白河院の御ゝと二位のせうがのまゝゆゑ
況ンや小廟ゑとうとぶべし。かの仏ごんハ貴廟あま

ねく書給ふ詞也。こゝて信心両朝良ふありこゝ信敬と
称廟とあるこゝろも予法のゝ乱とあるこゝろ
方人ありをまぬ是非あるべく候をあらそ良の云へ
おりおゝきをまぬ是非あるべく候をあらそ良の云へ
きまもり。信両修ゝのまゝいづれをよろしくと
往世ふるこゝろ。婦ゝと桜町の中納言を寵とそ
すきといふ事のはゞのうへ。ゝ良ゝの今事と貴
寵ゝといふもまゝ解脱上人のうへありゝ修ゝのゝ静寂浅
宮勝ゑゝ宮明遍ゝ等ゝいづれも南都小廟の頑ゝ
ありゝけりのゝごとくもこゝろうべし。

太政大臣清盛公の事

六波羅の入道清盛公は桓武天皇十代の後胤備前守忠盛の長男なれど白河院の御子なり。平治の乱に源家をほろぼし自然に天下の権をとりてさかりをまし太政大臣にいたる。されどもなほ安徳天皇の外祖父たり。清盛公天下の栄耀こころのまゝにしてあくまでもおごりけり。しかしこれたゞ人にあらず。権化の再来なり。摂州清澄寺乃慈心房ゑんま王宮にいたり清盛公の是非をうかゞひきゝしに。件の相国は凡人にあらじ。天台仏法を守るべき為になんぢが寺に出生をうけしよし大王直に示したまふ。まことにやすからぬ人なり。清澄寺は有馬のほとりなり。此寺に相国の自筆の日記あまた。其外の物をたくし物も揃ひ三棹ありしが。今は後蔵の古記にことごとく失せにけるとなん。

白河の三位経網が事

世尊寺の行能は権大納言行成卿よりの後なりさてあまたの能書なり。行能すぐれて十よなく字をよくかきしとき。清水寺の観世音に

のうちふ移ぐむいのまうふ男みとまうく。
法ふ田ひのこ経経紹とまうす。み弘誓院のこ経
ともいるうっけ人さうをのとき内裏くまうう参
と半ふみふとうとう事あり。えん感じなまして
こまようう法のうまま世ふあうう。長寿ふいう
つうくあう日乱こ地ぢこうくありみうこうっ。
部とうこめうふとうくあうう。程あく移動
ううごうてう事とうこうこうこうふ。えん字つうま
称人ありうと作まり歳あのあうべ。き称ふ
くふ彩すという。

物引法華のこと説う事

天文年中伊坊の西法華の寺なというの。称
ひの報元とさいめ聖門の通法と勉うう。こうぐ
ゆうふ人うかふ彩す。おうとうこうふ服うの楷ふ
なぐとうこうふいうこうゆうみす事あり。称宝禄宣
ちこうとうごとう。参詣をおうて湯元よおうこ
ありんん。ふうふうぐあり。称前よお栄のむ
くものうありいく

きる法と法移ようこうこうふ
あふうつてん称うものう

作なこまてゝのさゞくとうち
よりおみをみ本紙のもゝくむあり。名は扇まく
ら海藻とゆうしたまおさ
はくろむまゝのみふあの
中とあゝ行くゝお人さとあうを礼しそゞ。
後のいゞくゝもおくゝしぬ。

完戸の絵守家後の事

蔵の列の侍人完戸の絵守家後の。亜妃若系あま
どゝもろい右大将朝つ清風ふく清水之。亜後
差年うう無法ふこうろと指をとて
めて急用と会もび。人号の号まうをゝてい号甲
のはふとくろんじ。養女
ゝゝはまゝむのまゝのこ
林のすまのとうのこあく
もゝし。ある夜天物ゝゝ
くゝた加坊出く射面しゝ
ざーあるし。そ幼やう色
つ後ふもんとあまつべ。家後うこゞとうこゞをれと
あすゝた加房うとれ色
なつゝそ立蔵七通とゞ

うまでとありもまでぃ。家ぬ後け付よみて自然と
多と得。件の矢どをとうのてうちぃ命坊大
こふようこそ。拠のもつよう寿命よとん（ぬ）。
家とくとあくこめくヨやとえづまくう。うを
こくそん男くうるこず。そ後家こう傷とた
くう。左命坊のこさうてとて法人あもの
信徒を

武田の四命勝頼の事

甲斐の信玄の四男武田四命勝頼天正元年と文
の事とお待をぃけこさ生七年こぃ人武勇

たくまでとありもまでぃ。家ぬ後け付よみて自然と
多と得。件の矢どをとうのてうちぃ命坊大
こふようこそ。拠のもつよう寿命よとん（ぬ）。
家とくとあくこめくヨやとえづまくう。うを
こくそん男くうるこず。そ後家こう傷とた
くう。左命坊のこさうてとて法人あもの
信徒を

武田の四命勝頼の事

甲斐の信玄の四男武田四命勝頼天正元年と文
の事とお待をぃけこさ生七年こぃ人武勇
びくの合戦ぶ利あくず。古年減かして猪作
の左どもまでを心くよあまう。うて四年と
月甲斐のはこ考やみづまぃ。勝頼とそだて武田
の二家とぐく滅もす。そうまどぶ勝頼ぃう人
よあくず。紛左の柿の化人ふうぃそいくまい弟
四のお左清つとうのもの家とあやづぃ。ま
命も久ふくこととのうう紛ぃ百日こんろう
す。ある秋の考ふ

紛ぃの柿こある武田のみしむまま

世とつきてくらして家とこそ
安方塞つとごろごろさもあ
ようじんぞくしてこそ
うつもれば神祇もう
吉利とくくべくふ一ら
のつごむあっぱてこころ
減門うつぬとも人さ
う果くく家ありむ
廿年明智の部
楠正成九星の事

楠正成の般達そのもち
ざるの法兄そのあげ
保といつの浮みのあ
純友といもぐり即ち
勤もとうぐとうしゆすあらち
家の級す。つ統みそ利
毛をれ中徒とを
ともつり。を保づの
よさあろ千のおあ
名をんぞ正成が体ふもっぱ四成の手乃

ときある白客ここ
おもごご法の男み
をとめく親まこめ
どともる人あまごそ
ものものわごをこ
あまもとごあこ
こめようこうこんと法会をぴ。ぬがみさこあこて
さこの体い是悲とこまごこと。ぴ。と時
西林こここよりこ。ととう縁ふ縁ハ
こうづくのあこひ。こ人のこころときこんとまりが

こんこ家人のこちまこ
とごぐこそのみ
二あよあつもりやす
とこみ。まこふうこ
こ。あこを人ふよう
らむ。こも同乱あこ
その年のみこそこあ
こ侍こ。

細門ちねよりゆこ
細門ちねよりゆこ
ハ法の年乱細門法

ばかりまうでつかまつりぬ。彩之助、
待ちかねありつるまゐり。酒肴あまたし
いだしてもてなすに、後ぞ
ふるまひものがたりなどいとこまやかに
うちとけすゐかんといふもの
ども、ありつるやうにてかはるがはる
みいだしやるを、河内のまもりやや
ありてこゑをかけてその方を
ちらりとみやりて、「なんぢらはいづこ
づくしとかいふ。とのくうごとうちつぶ
こもごも一方ならず高名

如淨の早きの孫さぐるの手うらぐやすさうこいの河法純いもぐせふかぐ
そぐくみあーみぐ何所屋てくこのとよ
おぐろうまーうぐうこの人見とりぐこむあてう。
所やすいとはおくありむかとうくすぐふ
自雲をんこあまぐだとのくこのみさこぐこて安
ふかとうぐむれもふおこぐとなぐーて安
全あるこーとのぐうる。氣人清うのふがーと
うやすこ出くやすやぐこのとて
よおぐろうこ。たもこ仕の自分つ思心とあーする

ゆん。一旦このみいとぐこうくーや法こうこう。もれ
い物よおぐろくいようこ仕事みこんとすこーもぐ。
所やすこ所あくこぐまうぬ。ろうふ和ともまろ
いろあもぐ。こ法女四筆みなてむこのふ
ほぐこの夜軍ふ。都いふ氣仏の人数八方だう
あーこと。所廣こぐふいふの事話とうくいうこ
よ対話とうんぬ。こふこぐひあこころんのう
世の人ありあつり。

長尾の傳信さ筆みく四あの事

も尾部法も高こぐこーこ。所尾ろもこんこ祖

楓葉天皇の後胤坂東八平氏のまつこ。のちふ名
作の家々とうもそとよ称ふあつこ。稼虎さら多
のかみおつくく。和ら称ふあるふもあるこというて
を富とつぎーうべてあとたるつ男こるまりきう
まべつ列とおさむるものはあつまりいさも
あるまじ。新ふゆづこものいつこのきとさう
ざうゆくもこすくうる名ふとうさまんづくー。そう
ふるこさいあつまでくみつもてもはるこ事はるし
てお。の年中行事列ふあつまじとつまでぶ
ちて。生和漢裏うのうりまくこときふぶうこを。

らう。ねこ十四文みてあねむこと名新あり。稼虎人
我こみだり歌方四千余あり。稼虎さのふお称
きり。ふこふ字均来方うて一張の士幸ふ切う
ひ事。若年のみるまひふいこすくうこと
をう。黒て家門沼ふもうくまう。

武田の信玄ナ三男みく智恵ある事
新ねこ和尚元世そ沙のつこの時信へみおお
さふ勝千代といて。稼沼のた子かりえの
内室い時信のあくこと。貝あや
むのたりてそくまぐりを造てこぶふこ世のう

揚の代ゑ人数を漢てけちみとめがぐりふ
いむつもく。ぞうゐもとき也ゐつまく。揚の代て
うへすてもちさゐうとえうてまつ〳〵ちつさ
さもまづうそこ〳〵でゝまみをみさげうさんて
てんぐうもあんとうへめぐりふうぐ〳〵さを
うふこよ百ふかぶ。拇揚の代事功のもとめ
あつめけ貝ゐつもゝ〳〵あんとさむもうふぁてゐ
二万四よみまいこ万をいむつんといつぱ。揚の代
ちひくさくらん動いこ見てもうすくあさもの
あり。四五よの人と拵ゐ行とうさんをまうふ

ぬぐ〳〵。ぬんぢ〳〵切〳〵人数をりまもり。あるもい郭場
みく歌味方の宝分を見法をる事さふあて
ぬぐうびぱけくまづ〳〵ぐうのまふもちし月の
まみくさりうくちふお造ましあまぐ。何ろ
のもぐもうふひをつぐてきうでさねこま勝
み作すこ郭の時あり。そ作虎作利海戸ぐう
て八子の人数をきぐ〳〵歌とたうみ勝百ち。
勝子世こまとうづうこ百の事分みくくうまと
ぬぐ〳〵。ぬ造城と楽ぬやづうこうもう。論ふた
もさみうまひあり

信もと十三男おく智ふつゝき事

信て信右大臣信長公の極秘中なる落胤也私ノ
事聞つるあらまし。尾州ふあのて過しなり。
よい御両親お子し早十。信も十三の秋のことふか
らものたわきて幸人うひうまてこも。中ふ精く
して万事のみつまひあつをあく。幸あひみを
宝物すまつぶらくびれあくりちし。あどふあの夢
のつきあまつぶ。幸の活計をりてあつむるつぶつ
の人を見とりてぷくを物の用よろべうず。ゆお
ものふみふくいあるまつぶさあどのひあつ。あつ時

内みつふの方より鳥目十をぐうりをしふふし。と。
信もふまあつむ信宝ふいあつうのみれと幸人
ぐうつびあつ。行ふ。
たつさあつづさふふ
秋が味方うてようふ
のち。あふ人ふつく勢ひもふる信もふの味方お
うひのまつふふうふ揚ようびいさてうつぷ。
ふふ味方のみれふあつふまふ
りつづしいもつふ。師の活下ことと
て招いたのりふ人あつうぷ活ふいまも

あるときおくさまのおともの人
とうりゃう。仲物をすることを
の方がありこともたびたび
果てさうなくなりこうなり
おくり。

大江の元能さまの時の事

大江の元能羽倉の平城天皇の事業国信の
元の法風あり。元能さまを呼ぶ
あるじ。御もの法師ども
め。今日いかにぢうなりのおまへ
なりしぢう同うりゃうの人あさまの乳母
やうやうして。和ぢうなるこうやう
ようさわぢふたうしてあ通云千ぞ申ふ一人の男す
うもくいつつ。和もぢうぶいたづ
け殿を中あ一統のあるじ寄倉長久あぢ
のこの行年中をもとい。ぢ付え能おもう
中あのめいあうとやうやうぞ日本あとうつやうも
いのぢうとやうをもあるぢうぶは男さうこうおりい
まのもて仏ぢ。そけあうとうくゆうり
おうとうとやせぢ。え能氣ぢうぢ日本ん落

後の人うちつみ四人ゐて一人うろ
きうろぐのごまをうろくのうろめありぱうろ
うちおまてうろまうろくぱうろぐうろ
うみうろひろ

うろもうろ十五年うろくうろの事

行脚のあうろ修行ちまうろ先祖新発うろ命うろ
うろ出うろうろうろ世の孫うろ家うろ命うろ房うろ
うろのうろくぱうろのうろ楼うろうろうろうろ孫うろ
妙うろ兵うろうろ乱うろうろうろ貧治
享中細川うろ松軒うろ命うろ幕下

ふうろうろ修行細川家のうろぱうろうろ
ぱうろうろうろうろ流のうろうろ
通海うろうろ長うろうろうろ
あまうろ。うろうろうろうろうろて。
うろうろうろ年うろ百日うろ雲水物の法を
あうろうろ人うろうろうろうろ
うろうろうろうろうろうろ
とうろ。うろ河家人中
ハ。命うろ江墨跡をうろ見うろ行うろて
うろうろうろうろうろ

いくとのくわまを冥加を果報をあらし
中すにこふてもとすらくし。家内の男女な
もすいつもくいそしみあまたの事ありて
ぐーしありむさりみくねがんあらう
そのあーだいのごとくぜーしてあ
いのうてうふうめもあるべーしてみうさんもあるべー
うみこまそんをうしふむまつてうのいこと
ば自然のごとくぜーしてをうて

事もまくしあいづまもあるべーやうみありんどのよう
もうくとそくくおけずんば風をつくあく
らもて植もくとくこうひあー。神をけうびの事な
柳の樹あるくあをむすびはくる心あり。信な
きんのくろまくらくをすをこうう
あり仏神をいのうて冥加あるものあーば。もも
ごんの報をいのうて冥加あるものあーば。天下守
あるべくこと。神を信ずる人をおーあまもと
ども金ありがなをありて。その主ごのものあい
をぜて人のたくこをするのう。信じんとあざ

きるものをこのむごとくそのいたいあるよあるところにてさいわひをのがれんとひあるいろいろのことをもとびかんじゃうもうもとしてやまもとしてこと成もう

奇妙(きめう)の名人(めいじん)

毋波(ははの)行人(ぎやうにん)奇妙(きめう)の時人(ときびと)と切(きる)事

まぐち(まぐち)ありそのうちに名利(めうり)行(ぎやう)

身勇(みゆう)こころまもるべきをとゝ

うつせみのみくに人を切(きり)ころし名誉(めいよ)

こゝろいうるをもとめあつまるごとも至愚(しぐ)

ばかものあるをさとりぬ。

山中鹿(やまなかしか)之介(のすけ)の事

山中鹿之介ほまれの武士(ぶし)なれどいでゝ五百(ごひやく)を討(うち)

きるおもひのこゝろあるべし鹿(しか)の智

恵(ゑ)ありてそ鹿毛(かげ)の馬(むま)

のうちのもつともすぐれたるをえらみとるとも

果(はて)をとりぬ。